

C124	文化批評		
英名科目名	Criticism of Culture		
大学名	京都精華大学		
連絡先	教務チーム TEL:075-702-5119 FAX:075-722-0838		
担当教員	安田 昌弘 (ヤスダ マサヒロ)		
開講期間	2021年10月06日(水)~2022年01月26日(水) 3講時 13時00分~14時30分(毎週水曜日) 休校日については本学HPの大学カレンダーを確認してください。 http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/calendar/		
開講形態	後期・秋学期	開講曜日・講時	水曜日 3講時
単位数	2	履修年次	
会場	科目開設校キャンパス		
授業定員	30		
単位互換生定員	15	京カレッジ生定員	
試験・評価方法	各授業末に行う5分間レポート30%、中間レポート30%、期末レポート40%の評価配分による。		
超過時の選考方法	書類選考		
受講料			
別途負担費用			
その他特記事項	<p>【授業外学習の指示(予習・復習・課題等)】 批評対象とする「テキスト」は事前に指示するので、授業前に目を通しておくこと。また、授業後は体得した批評の方法を、自分の関心のある別の「テキスト」についてどのように応用可能かを考えて、ノートにアイデアを書き出す習慣をつけること。</p> <p>【履修条件・留意点及び受講生に対する要望】 日頃から様々な「テキスト」に触れ、それを批評的に読み解く訓練をしてほしい。これもアイデアをノートに書き出すこと。それがいつか創作・企画のネタになるはずです。</p>		
パッケージ科目			
低回生受講推奨科目			

講義概要・到達目標			
【サブタイトル】 「テキスト(作品を含む様々な解釈対象のこと)」を、いろいろな角度から言葉にする練習をします。			
【講義概要】 この講義では、「批評」の基本的な手法・視点を、できるだけわかりやすく紹介します。 「批評」というとなにか無責任に「テキスト」にケチをつける行為のように思われがちですが、それは思い違いです(そんなことをしても人を傷つけるだけです)。「批評」のことをフランス語で(英語でも)「critique(クリティーク)」といいます。この言葉は「境目」という意味も持っています。つまり「批評」とは、ちょうどシーソーのように、世界をある状態から別の状態に変えるための手段(戦術)なのです。ですから「批評」という行為は、私たちは無力ではなく、世界の変革に参加することができるのだ、ということをも前提として成り立っていることとなります。 では、「批評」を通して、できるだけ多くの人が共感・納得できる「より良い世界」を提示するには、どうすればいいのでしょうか? 必要なのは、一言で言ってしまうえば「社会性」です。つまり、ある「テキスト」について自分の紡ぐ言葉が社会(や他の「テキスト」)とどう結びつくのかを意識し、そのために必要な配慮をする(的確な言葉を選び、適切なやり方でそれを伝える)こと。対立を避けるために当り障りのない文章を書きなさいということではありません(そんなことはホントにどうでもいい)。そうではなく、より良い社会を実現するための説得力ある言葉を、責任をもって紡ぐということです。 本講義では、上に説明したような「批評」に欠かせない以下の二つの作業に焦点を当てます。一つは、批評の対象となる「テキスト」を内側から精密に読み解くことです。「テキスト」を構成する一つ一つの要素がどのように物語を編んでいるのかを分析するやり方を学びましょう。もう一つは、「テキスト」を外側から読み解くことです			

。「テキスト」をとりまく社会状況や文化(=文脈・コンテキスト)を捉え、作り手や受け手がそれにどのような意味を投げ与えているのかを丁寧に跡づけるやり方を身につけましょう。

- 【到達目標】
- ・ファッションやファッションデザインに関する基礎知識を身につけ、適切に説明できる
 - ・流行、衣服、消費、身体などファッションに関わるさまざまなトピックを分析できる
 - ・ファッションにまつわるさまざまな物事を自分なりにとらえられる

講義スケジュール

前半に、「テキスト」を内側から読み解くための基本的な手法や分析軸(これを一般に「内的読解」アプローチと呼びます)を説明します。後半には、「テキスト」を外側から読み解くための様々な視点や手法(「外的読解」アプローチ)を紹介します。批評の対象とする「テキスト」は、音楽とファッション以外のものを用意するつもりです(小説、詩、映画、広告、マンガ、写真、絵画、演劇……)。これは、授業で体得した手法や視点を、受講生各自が自分の関心のある「テキスト」について応用する能力を身につけてほしいと考えるからで、授業中にもそのような趣旨のミニレポートを課します。

- 第01回 イントロダクション
- 第02回 「テキスト」鑑賞会
- 第03回 内的読解 : ストーリーとプロット
- 第04回 内的読解 : 語る人と観る人
- 第05回 内的読解 : 語り方と時間
- 第06回 内的読解 : 多声体(ポリフォニー)と織物(テクスタイル)
- 第07回 内的読解 : 反復と異化
- 第08回 中間レポート講評会
- 第09回 外的読解 : 物語の「お約束」と読者の役割
- 第10回 外的読解 : 抑圧と無意識を読み取る
- 第11回 外的読解 : 複数の読みの共棲
- 第12回 外的読解 : 異性愛男性社会という前提を暴く
- 第13回 外的読解 : 地球の隅っから声を上げる
- 第14回 外的読解 : 「上」から見える世界と「下」から見える世界
- 第15回 期末レポート講評会

教科書	廣野由美子(2005)『批評理論入門~「フランクエンシュタイン」解剖講義』中公新書
参考書	丹治愛編(2003)『知の教科書 批評理論』講談社選書メチエ 大橋洋一編(2006)『現代批評理論のすべて』新書館 その他適宜指示する